

会館だより

2013年 4月号 第286号



公益財団法人 日中友好会館

「会館だより」4月号の内容

ご挨拶

- ・平成25年度を迎えて
(公財)日中友好会館 会長 江田五月

お知らせ

- ・『日中友好岸関子賞』論文募集要項
『日中友好岸関子賞』について

行事案内

《日中友好会館美術館》

- ・主催展「日中友好会館所蔵絵画名品展」
- ・山東省濰坊市の長崎巡回展示

《日中友好後楽会》

- ・定例談話会
- ・春季友好バスハイク
- ・年会費のお支払いについて

活動記録

- ・3月談話会を開催
- ・2013年後楽寮春節祝賀会
- ・都内各地日中友好協会の春節祝賀会と
除夜の餃子パーティー
- ・後楽寮寮生日本文化体験
一万座温泉スキー活動
- ・キズナ強化プロジェクト
平成24年度中国大学生代表団が来日

寄付のお願い

会館行事と人の動き

表紙

『唐装楽女』 董淑嬪 作
中国画 58×84cm

(2013年4/15～

「日中友好会館所蔵絵画名品展」より)

ご挨拶

■ 平成 25 年度を迎えて ■

公益財団法人 日中友好会館
会長 江田 五月



厳しい寒さもやっと終わり、春爛漫の好季節となりました。皆さまお元気でご活躍のことと思います。

昨年は、日中国交正常化 40 周年という節目の年でした。私も、2012「日中国民交流友好年」実行委員会の顧問を務め、日中両国で多くの記念行事が繰り広げられました。しかし 9 月以降は、政治レベルで両国関係が緊張し、その影響で 659 件の認定事業のうち 88 件が中止・延期となりました。こうした厳しい環境の中、会館職員や関係の皆さんの献身的なご努力で、次のような成果を上げることが出来ました。感謝するばかりです。

青少年交流事業では、2 千名超の事業が延期となりましたが、それでも 9 月以降も東日本大震災の被災地訪問を中心としたプログラムが展開され、本年 3 月まで各方面の青少年の訪問が続きました。心配された後楽寮生への影響も見られず、「後楽寮芸術団」は各友好団体での公演が好評を博しています。文化交流事業でも、中止になった企画もありましたが、「山東省濰坊県の世界展」が大好評となり、3 月末には「日中国会議員・公務員書道展」が開催され、私も出品しました。

平成 25 年度がスタートしました。昨年末の総選挙で政権交代となりましたが、現政府も以前と同様に、アジア各国等との青少年交流に積極的です。当会館は外務省の拠出を受けて、8 千数百人規模の招聘事業と 2 千数百人規模の派遣事業の実施に取り組みます。また、後楽寮生の要望も聞きながら、寮の全面改修にも着手します。文化交流事業では魅力的な展示や公演を展開していきます。会館の果たす役割はますます重くなります。関係者一同はみな、使命を自覚し力を合わせて全力を尽くしましょう。皆さんの変わらぬご支援をお願いします。

お知らせ

◆『日中友好岸関子賞』論文募集要項◆

このたび日中友好会館は『日中友好岸関子賞』を設立し、毎年一回、日本の大学あるいは研究機関の修士課程で学んだ中国人留学生の修士論文の中から優秀な論文二点を表彰し、それぞれ 20 万円の奨励金を進呈することにいたしました。

論文応募の詳細は以下のとおりです。

- (1) 募集対象は、中華人民共和国東北三省(遼寧省・吉林省・黒竜江省)からの留学生に限る。
- (2) 各年度末において修士論文学位審査に合格した人文社会科学系の論文を対象とする。
- (3) 応募者は論文に 1500 字以内の要約を添えて、下記の宛先に郵送すること。

〒112-0004 東京都文京区後楽 1-5-3 (公財) 日中友好会館 後楽寮内『日中友好岸関子賞』係
担当: 鈴木 (問合せ: Tel 03-3814-1261 Fax 03-3814-8383)

- (4) 本年度の提出締め切りは4月30日とする。
- (5) 受賞候補者にはあらためて指導教授の推薦状の提出を求める。
- (6) 受賞者の最終発表は10月末とする。
- (7) 応募論文は一律に返却しない。

選考委員：

西原 春男 (早稲田大学名誉教授・元総長)	小島 麗逸 (大東文化大学名誉教授)
田所 竹彦 (元朝日新聞論説委員)	山田 辰雄 (慶應義塾大学名誉教授)
劉 建輝 (国際日本文化研究センター教授)	斉藤 泰治 (早稲田大学教授)
岸 陽子 (早稲田大学名誉教授)	村上 立躬 (日中友好会館顧問)
武田 勝年 (日中友好会館理事長)	

『日中友好岸関子賞』について



このたび日中友好会館に『日中友好岸関子賞』を創設することになった。これは、日本と中国の人々との友好を心から願いながら激動の時代を生き抜いた一人の女性の願いを形にしたものである。

岸関子は、日露戦争後に中国大陸に渡った実業家の娘に生まれ、奉天(現在の瀋陽)で育った。浪速女学校で学んでいたころから、学問好きの父が北京から招いた中国人の学者に、兄や弟とともに中国語、中国の古典、書道を学んだ。乗馬の好きなお転婆娘はやがて岸要五郎と結婚する。夫は「五族協和」の夢を追って、大学卒業後、大同学院第一期生として満州に渡り「満州国」の行政官となった青年であった。夫とともに満州の僻地を回るうちに、彼女も「五族協和」の実態に触れることになる。やがて「満州国」は崩壊し、夫は敗戦の混乱の中で悲劇の死を遂げた。幼い三人の娘を連れて日本に引き揚げて来た関子は、外務省アジア局の職員として働き、のちには日本と香港の合作映画の通訳・翻訳をしたりして3人の娘を育て上げた。

娘たちは母の教育によって正しい歴史認識を持つようになり、中国に親しんでいった。長女は中国文学研究者となり、早稲田大学で教鞭を執る。次女は実業家として中国とかかわり、三女はやはり中国文学研究者として桜美林大学で教鞭を執った。母としての彼女が娘たちに望んだのは、女性が自立することと、父の志を継いで、なんらかの形で中国との友好交流に寄与することであった。

娘たちに望んだだけでなく、自らも留学生を自宅に預かったり、北京友誼賓館の料理人に日本料理を教え、さらには、日本の味を知ってもらうために自費で日本に招いたりした。なんといっても彼女の大きな貢献は、廖承志氏の要望に応じて「文革」直後、北京飯店の料理人たちに日本料理を基礎から教え、同ホテルの2階に正式に日本料理店を開店させたことである。

90歳を過ぎてからも娘たち一家とともにしばしば北京を訪れ、中国の人々から「姥姥」と呼ばれて慕われた。

2006年3月、桜の満開の季節に97歳の生涯を終えたが、このたび、彼女が残したささやかな預金を、中国東北部(旧満州)からの留学生に「姥姥のご褒美」として差し上げたという遺族の願いに応じて、一人の女性の日中友好の志を伝えるために、日中友好会館に『日中友好岸関子賞』を創設したしだいである。

行事案内

日中友好会館美術館

◆主催展 「日中友好会館所蔵絵画名品展」

会 期：2013年4月15日(月)～5月17日(金) 時 間：10:00～17:00

休館日：土・日・祝日

入場料：無料

主 催：公益財団法人日中友好会館

後 援：(公社)日中友好協会、(一財)日本中国文化交流協会、(社)日中協会ほか



趙士英「京劇盜馬」



董淑嬪「唐装樂女」



王玉珏「風蘭」

日中友好会館美術館では1989年の開館以来、数々の中国美術を紹介する展覧会を行い、出展画家や、表敬訪問された芸術家から作品の寄贈を受けてまいりました。作家の方々は当時から著名でありましたが、現在、更にご活躍の場を広げ、国内外に名を知られる画家ばかりです。該展では、所蔵品の中から、中国画や油絵などの絵画作品を中心に厳選した作品を約40点展示いたします。

◆山東省濰坊県の長崎巡回展示

長崎県の伝統凧「ハタ」揚げ大会(4/7)に合わせて、当館所蔵の山東省濰坊県を約50点展示することとなりました。けんか凧で有名な長崎伝統凧「ハタ」約50点との共同展示となります。また長崎市内で行われる年に一度のハタ揚げ大会(4/7)にも濰坊県3点が揚げられる予定です。お近くの方はどうぞご覧ください。

「日中友好 長崎伝統紋様ハタと中国山東省濰坊県展」

主 催：長崎新聞社、長崎ハタ揚げ振興会

協 力：(公財)日中友好会館、小川ハタ店

会 期：2013年3月29日(金)～4月9日(火) 時 間：10:00～18:00 入場料：無料

会 場：長崎新聞文化ホール「アストピア」1F(長崎県長崎市茂里町3-1 TEL(095)844-2412)

催事の詳細は下記までお問合せください。

【(公財)日中友好会館 文化事業部 電話:03-3815-5085 e-mail:bunka@jcf.or.jp】

日中友好後楽会

◆定例談話会

テーマ: 「談笑風生活 “命名”

ーネーミングの面白みを味わう」

日 時: 4月23日(火) 17:00より

会 場: 日中友好会館地下1階大ホール

参加費: 1,500円(会員)

非会員の方はお問合せください。

今回は、後楽寮生の王蕾さんにお話をさせていただきます。たとえば、“可口可乐(コカコーラ)”“三得利(サントリー)”など、メーカーやブランドには様々な意味が込められたネーミングがされています。

談話会では、中国や日本の実例を挙げてネーミングの極意を探ります。よく使われるネーミング例から、ビジネスにおける知恵を学びましょう。どうぞご聴講ください。

談話会後は、館内にて懇親夕食会を予定しております。

◆春季友好バスハイク

日時: 5月23日(木) 8:00 飯田橋発予定

日時が先に決定いたしましたのでお知らせ申し上げます。行先は関東近郊です。

詳細は決まり次第ご案内いたします。

◆年会費のお支払いについて

会員の皆様には4月中に、平成25年度分(平成25年4月～平成26年3月)の年会費の振込用紙を郵送いたしますので、届き次第お支払いをお願い申し上げます。

【申込み・問合せ】

後楽会事務局 小林陽子

電話: 03-3811-5305 FAX: 03-3811-5263

メールアドレス: kourakukai@jcf.c.or.jp

活動記録

◆3月談話会を開催



講師の孔曉鑫さん

3月7日に、会館大ホールにて3月度の談話会を開催いたしました。後楽寮生の孔曉鑫さんを講師に迎え、中国の民族楽器「古箏」の演奏とお話をさせていただきました。

古箏についての紹介のあと、「漁舟唱晚」「春江花月夜」など代表的な6曲とアンコールに日本の曲「花」を演奏していただきました。チャイナドレスに身を包んだ孔さんの優雅な演奏を聞き、聴講者は春のゆつたりしたひとときを過ごしました。

(後楽会事務局)

◆2013年後楽寮春節祝賀会

2013年2月4日、2013年春節祝賀会が大ホールで行われ、寮生と日ごろお世話になっている友好団体の方々など300名余りが集まり中国の伝統的な祝日である春節を祝いました。

まず後楽寮寮生委員会の陳略峰委員長が寮生に対するこれまでの感謝と今後も勉強に励み祖国へ恩返しができるようにしたいと挨拶、続いて江田五月会長がお祝いの言葉と、留学によって今後も日中友好に貢献できるよう期待するとの挨拶、中国大使館教育処からは楊光一等書記官が白剛公使参事官の挨拶を代読、留学生に対する日中友好会館への感謝とこれからの日中関係の発

展を期待したいと挨拶されました。

そして、2名の寮生がそれぞれ中国語と日本語の司会者として登場し、寮生の出し物がスタート。ギターやベースによる歌の披露、チベット・モンゴル・ウイグルと現代的なダンスのコラボレーション、ピアノの連弾で“ラデッキー行進曲”、古箏と馬頭琴の演奏、ソプラノ歌唱など寮生による演奏や歌の披露の後、寮生の作詞作曲による“後楽寮の歌”と“上を向いて歩こう”を合唱しました。



寮生によるバンド演奏

その後、会場を後楽寮食堂に移し、後楽寮調理師による料理を味わいながら歓談し、寮生もいろいろな来賓の方と交流していたようでした。ここでも寮生のいろいろな出し物やゲームで来たる春節に向けて大いに盛り上がりました。

寮生達は2012年の年末から勉強が忙しい中、時間を見つけては合唱や各自の出し物の練習を一生懸命していました。その甲斐あって、この春節祝賀会は成功裏のうちに終了することができました。

(留学生事業部)

◆都内各地日中友好協会の春節祝賀会と 除夜の餃子パーティー

2月10日の春節前後は都内各地の日中友好協会による祝賀会が行われ、寮生の招待や後楽寮芸術団への演奏依頼が下記のように目白押しでした。

2/2 (土) 渋谷区日中友好協会春節のつどい

2/3 (日) 北区日中友好協会

春節餃子パーティー

2/9 (土) 千代田区日中友好協会新春のつどい

2/13 (水) 目黒区日中友好協会春節のつどい

後楽寮でも2月4日に春節祝賀会があったため、特に歌や演奏を披露する寮生はとても忙しく、勉強の合間の練習が大変だったと思います。

そんな中、2月9日は春節前夜のいわゆる大みそか、中国では除夕といえます。この日、中国では家族団欒での餃子作りで新年を迎えます。

後楽寮という大家族でも寮生と職員で餃子作りをしました。面をこねる人、皮を伸ばす人、具を包む人...。食堂の調理師・寮生・職員の全員が洋服や手を真っ白にしながらくさんの餃子を作りました。そして餃子を茹でている間に急いで会場を片付け、出来上がったアツアツの餃子を参加者全員でワイワイ言いながら味わいました。

その後、中国の春節聯歡晩会の番組を見たり、カードゲームやカラオケを楽しんだり、携帯電話で中国の家族に連絡を取る人、そして歓談する人など思い思いに除夕の夜を楽しんでいました。



餃子を作る寮生

いよいよ春節を迎える瞬間となりました。日本時間では深夜1時になりますが、テレビのカウントに合わせ、寮ではクラッカーで盛大に新年を迎えました。その後も寮生達は春節の夜を楽しんでいたようでした。

寮生が日ごろの忙しさを忘れ、心から楽

しめる数少ない機会ですが、後楽寮での生活が少しでも日本留学の思い出となってもらえればありがたいと思っています。

(留学生事業部)

◆後楽寮寮生日本文化体験

一万座温泉スキー活動



スキー場にて

3月5日、後楽寮の中国人留学生28名が群馬県吾妻郡嬭恋村にある万座温泉を訪問し、一泊二日の日程で存分にスキーと温泉を楽しみながら、お互いの絆も深めました。この活動は、中国大使館文化部の馮一等書記官と日中友好会館留学生事業部が、留学生に日本文化を体験させる目的で実施し、群馬県万座温泉日進館のご協力のもと行われました。

寮生は朝8時に後楽寮を出発、貸切バスで目的地の万座温泉日進館まで5時間ぐらいかかりました。天候は快晴だったので、途中、富士山も見えました。出発時の東京は13度ぐらいですっかり春気分でしたが、山に入ると残雪が姿を現し、正に川端康成の「トンネルを抜けると雪国であった」というようでした。「雪国」では、雪は世界を銀色にそめ、眩しいほど目に映ります。旅館に到着する前に、すごい硫黄の匂いがバスに入り込んで、火山の気配を感じさせられました。「天空に一番近い癒しの湯」と言われる万座温泉は標高1800mの自然豊かな国立公園内に位置し、日本一の硫黄濃度の良泉質を誇っています。源泉100%の「苦湯」などもあれば、万座の雄大な山々や満

天の星空が堪能できる露天風呂「極楽湯」もありました。

到着早々、簡単に昼食を済ませましたが、みんな食事中もわくわくしながらスキーの話をしていました。私のように、初めてスキーをする人もいれば、中級レベルのコースに挑もうとする人もいました。宿泊先の日進館インで旅館が用意してくれたスキーウェアと靴に着替えたら、皆は真っ先に写真を撮りあっていました。先輩やスタッフの方に手伝ってもらい、スキー板を調整してスキー場に向かいました。スキー経験者の田辺さんに転び方や止まり方などの基礎を教わってから、練習に入りました。さすがに初心者が多いので、立ったまま動けずに止まっていたり、何人かがぶつかって絡んでいたり、転びまくったり、すごい場面でした。ベテランスキーヤーが颯爽とそばを滑り抜けるのを見て、皆感動せずにはいられませんでした。ここは少し危ないと感じたので、なだらかな場所に移ってまた挑戦し、皆一生懸命練習して一日目のスキーを終えました。



夕食後の記念撮影

晩御飯の前に少し温泉に入ってから、皆浴衣姿で食事会場に行きました。上品なお女将さんが挨拶に来て、「日本の旅館には必ず着物を着ているお女将さんと温泉がある」と紹介し、料理の食べ方も説明してくれました。馮先生や陳先生、田辺さんに感謝の気持ちを込めて、皆次々と酒を注ぎに行ったり、会場はとても賑やかでした。途中、社長の大野さんも挨拶に来てくださっ

て、皆で記念写真を撮りました。面白いことに、旅館のスタッフには西洋人もいて、写真を取ってくれるようお願いしましたが、面白い人だから一緒に写真に入ってもらいました。宿泊先ではまた二次会を開き、万座温泉日進館の山田部長も顔を出してくれて、皆と歓談して楽しく過ごしました。

二日目は朝食後、前日転んだ痛みも有るけど、皆またスキー板を肩に載せ、練習しに行きました。お互いに悪い姿勢を直しあった結果、皆前日より良くなっていました。前より転ばずに長く滑ることができ、だんだん上手になって、私も最後にちゃんと止まることができ、すごく嬉しかったです。昼食を終えまた少し温泉に浸かったりしたら、もう帰る時間になり、名残おいしい気持ちで東京に戻るバスに乗りました。

二日間はあっという間に過ぎましたが、スキーが少しできるようになって、とても充実しました。東京に戻ってから、また皆と一緒に夕食を取りながら歓談し、普段忙しくてあまり会話をする機会がない人とも仲良くなって、いい交流の場となりました。今回スキーに行った人の中には、もうすぐ中国に帰る人もいますが、今回の経験はきっといい思い出になったと思います。

(後楽寮生 呂天雯)

◆キズナ強化プロジェクト

平成 24 年度中国大学生代表団が来日
一行 77 名が東京・宮城・京都にて活動

3月4日から3月11日までの日程で、平成 24 年度中国大学生代表団(団長=王秀雲・中国日本友好協会 副会長)計 77 名が来日した。本団は、北京大学、北京師範大学、北京外国語大学、北京第二外国語学院、北京語言大学、中国人民大学、国際関係学院の7校より構成され、外務省が実施する「アジア大洋州地域及び北米地域との青少年交流(キズナ強化プロジェクト)」の一環として招聘した。

代表団は、キズナ強化プロジェクトに基づき、東日本大震災被災地である宮城県を訪問し、日本の震災からの再生に関して理解を深めたほか、大学訪問および学生との交流、外務省訪問、防災施設見学、日本の文化・社会に関する視察など、さまざまなプログラムに参加した。

宮城県仙台市、名取市、松島町を訪問

一行は宮城県仙台市を訪れ、宮城県庁より東日本大震災概要と宮城県の被災状況、地震に対する備えについてブリーフを受けた。また、仙台放送による講義に参加し、震災当時の様子とテレビ局の対応や、震災 DVD 発行など、被災地のメディアとしての役割に関する講話を聞いた。名取市閑上地区では、地元の語り部の方の案内で被災地区を見学し、津波による被害や復興状況、地元被災者の思い、閑上の歴史などについて学んだ。復興への努力や成果を知ることができた一方、震災の傷跡が残っている場所も見学し、涙を流す団員もいた。

東北大学訪問では、同学による東日本大震災復興事業への取り組みについて説明を受け、学生との交流にて、同世代の被災者の話に耳を傾けた。また魯迅が学んだ階段教室や、下宿先「佐藤屋」跡を見学した。このほか松島町では、町の美しさと安全を継承・発信し、復興のまちづくりを行っている様子について参観した。



被災地への応援メッセージを書き込む

団員は皆で作った復興応援メッセージを訪問先に贈呈するなどして、震災からまも

なく2年目を迎え、復興への道を歩み続ける被災地へ向けてエールを送った。

日本の大学生らと交流し

さまざまな角度から対日理解を深める

被災地訪問のほか、東京・京都にてさまざまな活動に参加し、包括的な対日理解を深めた。

東京では外務省にて「知識人は日中関係をどう考えるべきか」というテーマで講義が行われ、宮本雄二 当財団副会長・元日本国駐中国大使より、未来の日中関係を担う若者への熱いメッセージが送られた。また早稲田大学にて模擬授業やキャンパスツアーに参加したほか、英語や日本語でディスカッションを行うなどして、日本の学生と交流した。



立命館大学にて雅楽会の学生と

京都では立命館大学を訪問し、茶道や雅楽、アニメ、踊りといった日本文化を体験しながら、学生との親睦を深めた。京都市市民防災センターでの体験プログラムでは、地震の揺れや強風、避難や消火などを体験し、災害の恐ろしさや日頃の備えの重要性について認識を深めた。その他、清水寺や嵐山を参観し、日本の文化や歴史に触れた。

これらの活動を通じて、団員は日本に対する関心を、より一層高めたようだった。本団の受け入れにご協力下さったご関係の皆様、この場を借りて厚く御礼申し上げたい。

(総合交流部)

平成24年度中国大学生代表团 団員の感想

今回の活動は8日間という大変短いものでしたが、私達にとって、非常に凝縮された、充実した時間となりました。私たちは一人一人が自分の五感を使って、日本のすべてを感じ取ろうとしました。これまでは、教科書の例文やドラマの会話やシーンから日本を理解しようとしていましたが、それが一気に、自分の現実の中に入ってきたのです。日が経つにつれ、ここで得られた感覚や実感が、徐々に心に残る記憶となってきています。

3月7日午後、私たちは名取市を訪れ、3.11東日本大震災の現場を目の当たりにし、ここで見たすべての事に衝撃を受けました。

閑上中学校で、記念碑の横の机に書かれた「死んだら終わりですか？生き残った私達にできることを考えます。いつも一緒だよ。」というメッセージを読んだ時、心がとても痛みました。大自然の前では人間は無力な時があります。それでも、生命の持つ力が計り知れないものだと、ここで改めて深く感じ、私たちはそこから励ましをいただきました。

また名取市閑上の住民の、復興のための様々な努力に感動しました。現地の子供たちの、心の緊張を和らげるため、粘土で津波の模型を作らせたり、その時の気持ちを書かせたりしていましたが、これを見た時、子供たちはどんな気持ちでこれを作ったのだろうか、きっと辛かっただろう、と思いました。私たちは、これらの辛い努力がいつかきっと実を結び、人類が自然災害との戦いに勝つための、貴重な経験を残してくれると信じています。

このような貴重な機会をいただき、主催者の皆様に心から感謝しています。今回の訪問の成果として、ここで耳にし、肌で感じたことなど、すべてを中国に持ち帰りたいと思います。私は日本語の「絆」という言葉が好きです。「絆」は単なるスローガンではないはずです。中日両国には悠久たる交流の歴史があり、若者の一人として、中日友好のバトンタッチをしっかりとっていきたいと思っています。

8日間、本当にありがとうございました。
(北京第二外国語学院 法政学院4年 唐純)

◆ 寄付のお願い ◆

●目的

弊公益財団は、「日中両国間の人と経済・文化の友好交流を盛んにし、両国の末永い確固不動の友好関係を築き上げ、もって両国の経済・文化の発展向上を図り、さらに世界の平和と繁栄に貢献すること」(定款第3条)を目的としております。

弊公益財団の運営する後楽寮は、中国人留学生、研究員専用の寄宿舍であり1985年に建設されました。常時200名以上が宿泊しており、学業に勤しむと同時に日本人社会との交流活動も積極的に展開しております。又、4,000名を超える寮生OBは中国各地及び日本で活躍し、両国の相互理解促進と安定した関係構築に大きく貢献しております。彼らの日本での留学生生活を支援し、日中間の架け橋となる人材を養成します。

●寄附金の使途

- (1) 寮生の生活環境の整備 (2) 寮生の対外交流活動支援 (3) 寮生自治活動支援
(4) 後楽寮生OB会活動支援 (5) その他必要な支援

●寄附の方法

下記口座宛、銀行振込でお願い致します。

(振込手数料は当方負担。払込取扱票を送付致しますのでご連絡ください。)

ゆうちょ銀行 小石川店 振替口座 口座記号番号 00150-2-734580

口座名 公益財団法人 日中友好会館

寄附額 個人の場合 一口1万円 法人の場合 一口10万円

弊公益財団は、所得税法施行令第217条第1項第3号及び法人税法施行令第77条第1項第3号に掲げる公益財団法人であり、公益の増進に著しく寄与する法人です。

寄附をされると、税法上の控除を受けることができます。確定申告の際に必要な領収書を発行致しますので、寄付者のお名前、ご住所等をご連絡下さい。

1. 個人の場合 (1) 寄付金控除 または (2) 税額控除が受けられます。

(1) 個人が公益財団法人に対して支出した寄付金は、その寄付をした方に特別の利益が及ぶと認められる場合を除き、特定寄付金に該当します。特定寄付金の合計額から2,000円を差し引いた金額が寄付者の年間所得から控除されます(寄付金控除)。

(2) 個人が公益財団法人に対して支出した寄付金は、通常の所得税額から税額控除分〔寄付金額-2,000円〕×40%を差し引いた金額が最終的な納税額となります(税額控除)。所得税額の25%が上限額です。

(1)、(2)ともに控除の対象となる寄付金額は、総所得金額等の40%が限度です。

(1)、(2)どちらの場合にも所轄税務署へ確定申告を行ってください(勤務先などで実施される年末調整等では控除できません)。申告の際には弊財団が発行した領収書、税額控除証明書(税額控除の場合のみ)を添付してください。

2. 法人の場合

一般寄付金の損金算入限度額と別枠で、「特定公益増進法人に対する寄付金」の損金算入限度額の範囲内で損金算入する事ができます(公益財団法人日中友好会館も該当致します)。

【連絡先】(公財)日中友好会館 総務財務部 電話: 03-3811-5317 FAX: 03-3811-5263

E-mail: hanabusa@jcfc.or.jp / matsushima@jcfc.or.jp

会館行事と人の動き 2/1～28

● 会館行事

- 2/ 1～2/24 ▶ 主催展「山東省濰坊凧の世界展」
(2/ 1開幕式、2/ 2凧制作実演、凧揚げイベント (於：横浜海の公園))
- 2/ 4 ▶ 後楽寮春節祝賀会
- 2/ 9 ▶ 後楽寮年越し餃子パーティー
- 2/28 ▶ 後楽寮運営委員会

● 来館・訪問・面会

- 2/ 1 ▶ 中国大使館科学技術処との会食 (武田理事長)
- 2/18 ▶ 留日学人活動站 李賛東副会長 来館 (武田理事長、村上顧問、留学生事業部)
- 2/19 ▶ 敦煌研究院 樊錦詩院長他 来館 (武田理事長、村上顧問、留学生事業部)

● 行事参加、その他の活動

- 2/ 2 ▶ 渋谷区日中友好協会春節のつどい(留学生事業部、後楽寮生)
- 2/ 3 ▶ 北区日中友好協会春節餃子パーティー(留学生事業部、後楽寮生)
- 2/ 5 ▶ 中国大使館主催新年会 (江田会長、武田理事長他)
- 2/ 9 ▶ 千代田区日中友好協会新春のつどい(留学生事業部、後楽寮生)
- 2/13 ▶ 目黒区日中友好協会春節のつどい(留学生事業部、後楽寮生)
- 2/28 ▶ 群馬県LED道路照明本格運用記念式典(王理事)